

行事名	第 24 回機械・産業遺産ツア
開催日時	2025 年 9 月 8 日 (月) 13:30~16:00
場所	(株) サッパボイラ (大阪市北区中津 3-25-16)
参加人数	シニア会員 19 名
行程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13:30~13:35 シニア会会長挨拶 ・ 13:35~13:45 鳴波郁子社長ご挨拶、会社紹介 ・ 13:45~15:30 工場見学、蒸気機関車のボイラ見学 ・ 15:30~16:00 全体質疑、記念写真
内容と感想	<p>1) (株) サッパボイラの紹介</p> <p>最初に鳴波郁子社長より会社説明があった。会社は 1918 年 (大正 7 年) 、現社長の高祖父にあたる鳴波曾太郎氏が個人事業としてサッパ鉄工所を興し、ボイラーの製造と修理を開始した。ボイラーやゴミ焼却装置などの設計・製作・据え付けを行っている会社である。創業して 107 年ほどになるが、昔とは違い全国的にボイラー、特に炉筒煙管ボイラー等の製造台数は年々減少傾向にあり長らく蒸気機関車用ボイラーの修繕関係の事業を少人数で継続している。日本で数少ない蒸気機関車のボイラーのメンテナンスを引き受けている大変貴重な会社である。</p> <p>2) 工場見学、蒸気機関車のボイラ見学</p> <p>常務取締役鳴波隆友工場長から、赤茶色の巨大な機関車用ボイラーを前にしてユーモアも交えながら説明を受けた。現在復元工事が完了し出荷を待つ C571 号という、やまぐち号で有名な機関車のボイラーが煙管を取替えた状態で置いてあった。SL ボイラーの修復にはリベット止めという技術が欠かせないが次第に使われなくなり、その技術の伝承に悩んでいるとのことであった。1 台にかかる修復期間は約半年程度であるが、いつも仕事があるとは限らないのと、計画どおり進まないのが常である。失敗を経験しながら知恵を蓄積し新たな工夫でやりぬいているとのことであった。</p> <p>3) 所感</p> <p>鳴波隆友工場長の説明は非常にわかりやすく、時にユーモアを交え 2 時間近くの時間があっという間に過ぎたように感じた。会員の多くの方が質問したがご丁寧にお答え頂いた。SL のボイラーの修理は JR の方針に左右されるので受け身となり、会社の営業努力では如何ともしがたいとのことであった。それでも SL のボイラーのメンテナンスを一手に引き受けているという使命に燃えて、頑張っている姿は頼もしい。ただ仕事の性格上忙しい時期と暇な時期があるので人の配置が難しいと感じた。</p>



工場玄関



谷川会長ご挨拶

(左から、颶波隆友工場長、颶波郁子社長、谷川会長)



工場見学後の見学者スナップ写真